

第7章 助産師の就業継続意思、 ライフサイクルと就業状況

助産師の就業継続意思、ライフサイクルと就業状況

1. 調査概要

1) 目的

助産師の就業継続意思の実態を明らかにし、ライフイベント、助産の実践経験、現任教育の実態から助産師のライフサイクルと就業状況を明らかにする

2) 調査対象

助産師

3) 結果

(1)助産師の就業継続意思

現在の職場における就業継続意思について回答した助産師 2,395 人のうち、「現在勤務している産科関連病棟で働き続けたい」のは 1,877 人 (78.4%)、「現在勤務している病院の、ほかの病棟で看護師として働き続けたい」のは 94 人 (3.9%)、「現在勤務している病院からの退職を考えている」のは 703 人 (29.4%) であった。「現在勤務している産科関連病棟で働き続けたい」と回答した 1,761 人の助産師のうち、「ずっと働き続けたい」のは 655 人 (37.2%)、「期限を決めて働き続けたい」のは 1,106 人 (62.8%) であり、その期限は最短が半年、最長が 10 年、平均 3.2 年であった。

(1)「現在勤務している病院の、ほかの病棟で看護師として働き続けたい」助産師について

以下、「現在勤務している病院の、ほかの病棟で看護師として働き続けたい」と答えた助産師 94 人についての結果を述べる。

「現在勤務している病院の、ほかの病棟で看護師として働き続けたい」助産師 88 人のうち、20代は 32 人 (36.4%)、30代は 25 人 (28.4%)、40代は 25 人 (28.4%)、50代は 6 人 (6.8%) であった。また、助産師 93 人のうち、未婚は 53 人 (57.0%)、既婚は 40 人 (43.0%) であった。助産師経験年数は、多い順に「1～5 年目」33 人 (35.1%)、「6～10 年目」26 人 (27.7%)、「15～20 年目」14 人 (14.9%) であった。また、94 人の助産師が、現在の勤務先を選択した理由の 1 位とした理由は多い順に「自宅からの通勤の便が良い」25 人 (26.6%)、「出身地と同じ都道府県である」11 人 (11.7%)、「給与水準が高い」9 人 (9.6%) であった。

(2)「現在勤務している病院からの退職を考えている」助産師について

以下、「現在勤務している病院からの退職を考えている」と答えた助産師 703 人についての結果を述べる。

「現在勤務している病院からの退職を考えている」助産師 679 人のうち、20代は 251 人 (37.0%)、30代は 226 人 (33.3%)、40代は 151 人 (22.2%)、50代は 50 人 (7.4%)、60代は 1 人 (0.1%) であった。また、助産師経験年数は、多い順に「1 から 5 年目」276 人 (39.3%)、

「6～10年目」165人（23.5%）、「11～15年目」85人（12.1%）であった。

(3) 病院機能別にみた助産師の就業継続意思

現在勤務している病院機能別にみると、「総合周産期母子医療センター」に勤務している助産師641人のうち、「働き続けたい」のは411（64.1%）人、「他の病棟で看護師として働きたい」のは30人（4.7%）、「退職を考えている」のは183人（28.5%）であった。「地域周産期母子医療センター」に勤務している助産師798人のうち「働き続けたい」のは556人（70.1%）、「他の病棟で看護師として働きたい」のは24人（3.0%）、「退職を考えている」のは191人（24.1%）であった。「一般病院」に勤務している助産師1,177人のうち、「働き続けたい」のは804人（68.3%）、「他の病棟で看護師として働きたい」のは36人（3.1%）、「退職を考えている」のは303人（25.7%）であった。

総合周産期母子医療センターのMFICU病棟に勤務している助産師237名のうち、「働き続けたい」144人（60.8%）、「他の病棟で看護師として働きたい」7人（3.0%）、「退職を考えている」81人（34.2%）であった。地域周産期母子医療センターのMFICUに勤務している助産師14名のうち、「働き続けたい」11人（78.6%）、「他の病棟で看護師として働きたい」2人（14.3%）、「退職を考えている」1人（7.1%）であった。

(4) チームワークと助産師の就業継続意思

助産チームとして、「そうである」と回答した助産師の方が就業継続意思が高く、「そうではない」と回答した助産師の方が退職意向が高かったチームワークの項目は、「職場に和やかな雰囲気がある」、「やってみなければわからないことでも、前向きなことであれば支持される」、「実績やキャリアの違いにこだわらず、切磋琢磨している」、「チーム内で問題が起こっても、それを解決するだけの力がある」、「仕事の仕方や仕事で困ったことについて、相談しあっている」、「仕事を一人でたくさん抱えているスタッフがいたら、援助している」、「経験や職位などの立場が上のスタッフに対しても、率直に意見をしたり、他の考えを出したりする」、「仕事の仕方について迷っているスタッフがいたら、積極的に相談に乗っている」、「お互いの都合や仕事の進み具合に合わせて、仕事の仕方を工夫して調整しあっている」、「お互いに建設的な意見を出して、仕事をしやすくする工夫をしている」、「意思と強調して働いている」、「自分の仕事を活かして仕事をしている」、「助産師独自の仕事をしていると思う」であった。

また、助産チームとして「そうである」と回答した助産師の方が退職意向が高く、「そうではない」と回答した助産師の方が就業継続意思が高かったチームワークの項目は、「前例や慣例に反する意見が出されることはまれである」、「お互いに連絡をとらずに行動してしまい、失敗することがよくある」、「意味がないと思われる仕事を割り当てられることがある」であった。

(5) 助産師の就業継続意思と出向への意向

「現在勤務している産科関連病棟で働き続けたい」と回答した1,431人の助産師のうち、

「一定の条件が整えば他施設への出向を検討してもよい」のは 1,151 人 (80.4%)、「どのような条件が整えられても他施設へ出向することはできない」のは 280 人 (19.6%) であった。「現在勤務している病院のほかの病棟で看護師として働きたい」と回答した助産師 63 人のうち、「一定の条件が整えば他施設への出向を検討してもよい」のは 46 人 (73.0%)、「どのような条件が整えられても他施設へ出向することはできない」のは 17 人 (27.0%) であった。「現在勤務している病院からの退職を考えている」と回答した 543 人の助産師のうち、「一定の条件が整えば他施設への出向を検討してもよい」のは 456 人 (84.0%)、「どのような条件が整えられても他施設へ出向することはできない」のは 87 人 (16.0%) であった。

4) まとめと考察

助産師の就業継続意志として、約 3 割の助産師が現在の職場からの退職を考えていることが分かった。「現在勤務している産科関連病棟で働きたい」と回答した助産師でも、「ずっと働きたい」は約 3 割であり、「期限を決めて働きたい」が約 6 割だった。具体的な期限は平均 4 年であり、助産師として様々な場で働きながら、知識と技術を向上させていくキャリアの重ね方を志向する様子が示唆された。「現在勤務している病院からの退職を考えている」と答えたのは、助産師経験年数 1~5 年が約 3 割と高めであったことから、4~5 年を目処に、次のステップを考えている様子が伺える。

勤務先でみると、MFICU 勤務の助産師の退職意向が高くなっている。全体では、29%の助産師が退職意向を示しているが、MFICU では、32%が退職意向を示している。MFICU の助産師のうち、未婚助産師の退職意向が 35%で、既婚助産師の 28%を大きく上回っている。MFICU は総合周産期母子医療センターに集中していることから、病院機能別で見た場合、総合周産期母子医療センターにおける助産師の退職意向が高くなっている。

一方、産科単科の病棟と産科混病棟で比較した際に、勤務先の病棟による退職意向に大きな差異は見られなかった。

日本看護協会では、助産実践能力の強化支援と助産師の就業先の偏在是正に貢献するひとつの対策として、「助産師出向システム」を提案している。助産師出向とは、現在の勤務先の身分を有しながら、他施設で半年間から 1 年間など、助産師として働くものである。現在の周産期医療体制のもとで、助産師としてローリスクからハイリスクまで、多様な妊娠・分娩を経験しながら、助産実践能力を強化していくには、1 つの分娩施設だけでは多様な経験を積み難い。本調査結果では、分娩介助件数が少ない若手助産師に退職意向がある実態や、高度医療を提供する MFICU の勤務助産師に退職意向が強いことが明らかとなり、退職せずに「助産師出向システム」を活用して、他の施設で助産実践能力を強化していくことも有効と考えられる。本調査結果では、退職を考えている助産師でも、一定の条件が整えば、8 割以上の助産師が出向の意向を示している。助産師出向システムの活用は、助産実践能力の強化支援と同時に、助産師の離職率低下や潜在化を防ぐ一手段としても期待される。

就業継続意志と現在の勤務先を選択した理由（第一位）のクロス集計結果では、「現在勤務している病院の他の病棟で看護師として働きたい」と考えている助産師が、現在の勤務

先を選択した理由で「給与水準が高い」が5ポイント、「自宅から通勤の便がよい」が3ポイント全体平均よりも高かった。つまり、助産師として働き続けるために他の施設に転職するのではなく、看護師として現在勤務している病院に残ることを選択する背景には、給与体系や生活圏の問題が大きいことが推察される。近年、産科医不足による産科病棟の閉鎖が相次いでおり、助産師としての業務を継続できない状況も起きている。このような状況において、助産師としての経験と知識の向上を継続的に望む場合に、現在の勤務先の身分を有する「助産師出向システム」の活用が期待される。

産科病棟でともに働く「助産師と看護師のチームワーク」への助産師の認識に関する結果から、チームワークが機能していれば、退職意向は下がり、逆にチームワークが機能していないところでは、退職意向が高まる傾向が明らかとなった。また、助産師としての能力を活かして仕事ができていると感じている人ほど、退職意向が低かった。

産科混合病棟が全体の8割に達し、助産師と看護師が協働する環境の中で、助産実践能力を強化し、自らの能力を生かし、助産師としての役割を全うできていることを、実感できる労働環境の整備が求められる。